

編集後記

▼今年も、全国自治体学校、新潟自治体学校など、教育研究団体の主催でないいくつかの研究集会に参加しました。しかも、教育・子育て以外の分科会に出ました。教育を大きな視野から見る、教育を隣接科学との関連でとらえるなど、教育学と心理学だけでは得られない収穫がありました。

▼自治体労働者のしごとと教育のしごとを重ね合わせてみて、本質的には同じであることにも気づきました。孫の予防注射に来たお婆さんが、問診票の記入不十分を理由にただ戻りさせられたら、家庭争議は必定。

▼また、知らないことを知るということは楽しいことです。好奇心や知識欲は誰でも持っているのですから。

▼新しい知人、友人ができることも楽しく有意義なことです。加藤さんの「自治体学校参加記」も懇親会の効能に触れて

います。新潟自治体学校の交流懇親会には、必ず誰か教育研究所の趣意に賛同し、入会して下さる副次的効果もあります。

加藤さんもその一人。このような方々に支えられて研究所が存在することに感謝の念を新たに、89年最後の編集後記を書きました。因みに、自治体問題研究所の理事長も長崎先生、事務所もわが研究所と同室、机は私の隣。(若月又次郎)

▼九月一日、「にいがた県民教育研究所」の第六回総会が開かれました。

私たちは、研究所が新潟県民の要求を基礎にした民主的な教育運動に一定の貢献をしつつあると自負していますが、設立五周年を期してあらためて日本の教育運動全体の視野から、「にいがた県民教育研究所」が果たしている役割と課題を明らかにする必要があると考えました。

さいわい、千葉大学教授三輪定宣氏がその労をとって下さって第六回総会当日の記念講演となったわけです。なお、本号所載の「日本の教育運動における「にいがた県民教育研究所」の役割と課題」

は講演と同タイトルですが、三輪氏が改めて論旨をまとめて執筆されました。

▼座談会「子育て・教育と食文化」では「食」と子どもたちの発達を視点にいくつかの問題提起がなされています。西山氏「食」と「農」その意味するもの」と併読すればさらに今日の「食」をめぐる問題状況が浮き彫りになるでしょう。

「小さな庭のバードウォッチング」、写真をカラーにできないのが残念。加藤氏は野鳥研究の権威です。(片岡弘)

にいがたの教育情報 No. 24

1990年1月31日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所
 発行人 長崎 明
 新潟市東中通1-86 山崎ビル2F
 〒951 電話(025)228-2924
 振替口座・新潟4-12332
 印刷所 (有)あかつき印刷所
 長岡市新産4-4-7

本誌内容の無断転載を禁じます。